●サポーター会議⑦　2014/10/18　グループワークまとめ

	計画素案についての意見
A　地域福祉の活動の輪をひろげます	まちづくり協議会にはキーマンがいる。育てないといけない。継続性が必要。
	社協(無理かもしれないが)・区長経験者・区長業務経験者は安全・防災だけでなく、福祉のウェートを高めてもらう。
	社協(無理かもしれないが)・区長経験者・区長業務経験者など人生経験豊富な人にトップをやってもらい、若手は実働部隊として。
	活動したい人はたくさんいる。やりたい人が着手しやすいように、分かりやすく。
	お達者ボランティアの今後が心配。離れてしまった人が結構いる。
	ポジションを具体化して分かりやすく。
	やることを明示。
	まちづくり協議会を月2回くらい開催→軌道に乗ったら月1回、隔月で。
	目標達成→過程が大切。達成したら終わりではなく、継続していく。
	婦人会→女性の会。
	自助・共助に互助を追加。
B　地域福祉の活動を支えます	市民に求める要求のハードルが高すぎる→知識のない一般市民でも「やれそうだな」と思えるレベルに下げる。
	社協の負担が大きくないか？実現可能？→計画内容に期限をつけて具体性を。実現が可能なことを計画に書いてほしい（書いてあることは重要なものでも、「遠い未来できたらいいね」になっていて、いいのか？）。計画が全体的に盛り込みすぎ。
	4章（2）生活困窮者支援センターの説明→それが何で、誰がつくって、誰が何をするのか。生活困窮法の説明を前段でしてほしい。福祉総合相談窓口との違いは？
	計画、必要なところだけ読んだときも、前段からのつながりが分かりやすいように。
	用語の説明、使いどころ。
	ひろげる、ささえる、つなぎ・育てる。はそれぞれ関連しているので、この３つを分けて考えるのは逆にむずかしい？この3つのカテゴライズは隠してしまってもいいのかも？
	計画を実行していくにあたって、問題を抱えている人を援助するためにできることからはじめてほしい。個別事業計画。その過程で、地域の組織化、啓発を進めていくのが望ましいのでは？（いろいろな考え方の方がおられるので、時間がかかるのでは）
	各ステップごとに実施期限（目標）を入れる。
	「市民・コミュニティ」「地域の福祉系法人等」「社協」「行政」表現をそろえる。
	今ある組織、団体等に福祉の視点を持ってもらうようにする。
	困った人ではなく、困っている人というイメージが伝わるように。

●サポーター会議⑦　2014/10/18　グループワークまとめ

	計画素案についての意見
C　地域福祉の活動をつなぎ、大きな力に育てます	福祉計画を作っても浸透していない。(活)5年、(行)10年あるのに持続性が…
	つどいの場…作っていくのに「待ちの姿勢」が強すぎるのでは？自治会など既存団体の協力を得られるようにしなければ。
	人材バンクを上手に活用してほしい。動きたい人が気持ちよく動ける。
	空き家バンク…もっと気持ちよく提供できる条件を…。
	前の10年でぷらっとやほっとカフェがあるのに、さらに「つどいの場」を作るの？何が違うの？前の10年のレビューがないと新計画を立てるのは難しい。
	生活困窮者支援とあるが、基準はどこなんだ？具体的に盛り込んでは…。要支援者層は誰(低所得・高齢者・障がい)？生活保護は条件がとても厳しい。
	まちづくりは我々が出したがその他は…？市や社協の方針にすりかえられているイメージを持った。いつの間に小学校区の会議とかCSWとか…。(座談会の意見は？サポーター会議委員の意見は？)
	「生活困窮者支援センター」の中身、困窮者の基準の説明が欲しい。要支援者層は誰？
	つどいの場創立支援　具体的には？
	【第4章の問題点】 ①「まちづくり協議会」の設置がどこから出てきたか？「CSW」がどこから出てきたか ②「小学校区サポーター会議」の設置がどこから出てきたか？ ③「小学校サポーター会議連絡会」の設置がどこから出てきたか？ ④「つどいの場」 ⇒具体的になっていない
	社協が住民ボランティアの参加を得る組織であることから、なければならないことから…等 →社協姿勢の問題 市民参加の尊重が感じられない。 どれも最もな内容であることから、今後の推進体制のあり方と考えられる。
	生活困窮者に対することで、母子・父子家族低所得者、高齢障がい者について我々がもっと働かなければならない。
	行政の活動計画に対する関わり(役割)が非常に少なくなっている。 ※計画の性格(2)に行政では十分に対応できなくなった。いわば間隙のサービスを地域で補完するを目指すと記載されているが、主体は行政ではないか。
	文言中サポーター会議を地域助け合い会議としては？高齢者には分かり難い。